

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 9 月 8 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3873300291		
法人名	医療法人 さくら会		
事業所名	グループホーム 菜の花		
所在地	愛媛県東温市志津川91番地3 (電話) 089-960-5855		
管理者	井出 美智子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 7 月 2 日	評価確定日	平成 20 年 9 月 10 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 6 月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 10 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	18 人	常勤 16 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	17.2 人

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	有( )円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

### (3) 利用者の概要 (平成 20 年 6 月 1 日事業所記入)

利用者人数	27 名	男性	2 名	女性	25 名
要介護 1	3 名		要介護 2	1 名	
要介護 3	6 名		要介護 4	8 名	
要介護 5	9 名		要支援 2	名	
年齢	平均 84 歳	最低 62 歳	最高	99 歳	

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外に向かう幹線道路沿いにある、地域医療の核となっている診療所に隣接したホームである。中庭を三角に囲むように3ユニットが平屋で建てられており、ユニットが緩やかに繋がっているが、独立性を持たせている、よく考えられた建物である。窓からは小学生の登下校の姿を見ることができ、近隣の方にも声をかけやすい、地域に根付いたホームである。医者でもある運営者の利用者に対する思いが深く、終の棲家を提供するために、医療との連携に力を入れている。医療ニーズの高い利用者が多いが、ゆったりとしたケアが可能となっているのは、職員のターミナルケアの実践からの自信の表れと思われる。利用者に質の高い生活を提供しているが、シニア世代の職員が多いので、質の継続を考えて若い世代の育成にも力を注ぐことを期待する。

## 【質向上への取組状況】

### ▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

前回の評価では主な改善課題は取り上げられなかったが、自ら自己評価の取組み方を改善し、改善状況報告書を提出している。

### ▼ 今回の自己評価に対する取組み状況 (関連項目: 外部4)

評価項目を深く理解するために参考資料を用意するなど、時間をかけての取組みがなされている。

### ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議は回数が重ねられ、利用者や家族の参加も頻繁にあることから、ホームの運営に定着していることがうかがえる。ただ、併設している小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行っていることから、全般的な議題になる傾向がある。ホームと地域とのさらなる密着を図るために、民生委員の参画などを促してみることも期待する。

### ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

管理者及び職員は、家族は苦情などを言い出し難いものであると理解しているため、聞き出す努力をしている。また、運営法人の事務長も機会あるごとに家族に積極的に話しかけるなど、家族の意見に法人として対応していく取組みがなされている。

### ▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

近接している小学校や老人クラブとの交流があり、地域の清掃活動などにも積極的に参加しているが、近隣に民家が少ないこともあり、ご近所付き合いという身近な関係はこれからである。また、母体診療所とともに地域との交流を深めてきた経緯があるため、今後はさらにホーム独自の活動を進めていくことを期待する。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
**“愛媛県地域密着型サービス評価”**

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

(ユニット名)

やまぶき

記入者(管理者)

氏名

井出 美智子

評価完了日

平成 20 年 6 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) その方らしく暮らし続けていけるよう、事業所独自の理念をつくりあげている。  (外部評価) 母体の診療所が地域に密着した医療活動を行っており、その一環としてホームの運営がなされている。そのため、ホームの理念には、「地域」というキーワードは開設当初から組み込まれ、運営の基盤となっている。		職員全員で話し合い、みんなが納得の行く理念をつくっている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念の文書を短く明示し、字も大きくして、以前より分かり易く作成した。  (外部評価) 管理者や職員との話し合いでは言葉に迷いがなく、利用者へのケアの質を向上させようとする意気込みを感じることができる。そのベースには理念の理解と共有があり、理念の実践を行うために、日常的に話し合いが持たれていることが分かる。		理念の文書を玄関に配置したり、ご家族・外来者様にも分かり易く、理解してもらえるよう努力している。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 月一回、菜の花便りを発行している。地域とも交流し、理解してもらっている。		地域の催しに声がかかり、参加したり誘いが多くなりました。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 隣近所、幼稚園、小学校との交流を深めている。小学校では簡単な介護教室を開き交流している。催し物等の時は地域の施設、スーパーに告知し参加を呼びかけている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近くの商店、学校等と交流を行い、また地域の活動に積極的に参加するように努めている。  (外部評価) 近接している小学校や老人クラブとの交流が開設当初から行われている。また、地域の清掃活動などにも積極的に参加している。しかし、近隣に民家が少ないこともあり、ご近所付き合いという関係が地域と持っているとまでは言えない。また、母体診療所とともに地域との交流を深めてきた経緯があるが、ホーム独自でのより深い地域との交流が求められている。	※	地域の清掃活動等に、参加できるようになった。  ホームが小学校の通学路にあるという立地を活かして利用者が子どもたちの登下校を見守る等の地域貢献に取り組んだり、職員が黒子となって利用者が主役のちょっとしたご近所付き合いができるような日常的な交流を支援するなどの取り組みを期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域社会への行事参加、また行事開催により、地域に密着した活動を行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の介護の振り返りを行える機会であると、職員全員が認識しており、会議等で反省点をあげサービスの質の向上に努めている。  (外部評価) 職員全員で評価項目を話し合ったものをユニットリーダーがまとめ、管理者がコメントを添えるという過程を経て自己評価を行っている。管理者も職員も評価の意義を理解しており、一年間の振り返りという意味をこめて真摯な態度で取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 委員の皆さんの意見を聞き、前向きにサービスの質の向上に活かしている。広く意見を求め、アドバイスを受けている。  (外部評価) 運営推進会議は回数を重ね、利用者や家族の参加も頻繁にあることから、ホームの運営に定着していることがうかがえる。ただ、併設している小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行っていることから全般的な議題になる傾向があり、ホームの利用者に対する直接的な話し合いが持たれているとまでは言えない。	※	地域の民生委員等の参加もお願いし、利用者と地域住民がふれあえる機会を増やせるような会議の運営についての検討を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村に出向き、介護だけでなく地域の様々なサービスの情報を聞きホームで役立てている。  (外部評価) 市は、地域包括支援センターにグループホームの窓口を一任しており、地域包括支援センターと運営推進会議以外にも連携を図るよう積極的に取り組んでいる。		介護保険事故報告等を行い、改善策を提示して意見を求めたりしている。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在該当者はいないが、研修等で学び制度の理解は進んでいる。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会等で学ぶ機会を持ち、ホームの全職員にもフィードバックをして、高い意識を持ち防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所申込み時、契約時、分かり易く説明している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談・苦情窓口を設置し、対応をしている。口頭でも申し出しやすいよう、配慮をしている。		苦情受付先・担当を施設内に掲示しており、申し出しやすい環境を整えている。隣接している医療機関の玄関にも設置している。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 生活状況・健康状況等変化のある無しに関わらず、詳しく説明をしている。また月に1回金銭管理簿の報告をし、ご家族様にサインをもらっている。 <hr/> (外部評価) 近隣に居住している家族が多く、面会も頻繁にある。管理者や担当職員はその度に近況報告を行っており、月に一回の定期報告でも金銭管理等について書面で報告している。また、遠方の家族へは、定期報告以外にも電話等で利用者の状況報告を行っている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談・苦情窓口を設置して対応をしている。口頭でもご家族様が、気軽に申し出しやすい体制が整っている。 <hr/> (外部評価) 家族の意見や苦情は、まず利用者の担当職員が受けるようにしている。管理者は、家族は苦情など言い出し難いものであると理解しているため、その受け皿として対応するように努めている。また、法人事務長も機会あるごとに家族に積極的に話しかけ、意見等を聞き、法人として苦情や意見に対応するシステムを構築している。		苦情に対し適切な対応をすることが、ホームの質をあげることを理解しており、積極的に取り組む努力をしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員が意見を言いやすい会議を行い、皆で検討し日々の介護に活かせるようにしている。		日々の朝礼、月一度のミーティングを開催し、何かあればその都度、話し合っている。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 行事や外出支援の時など、必要に応じた職員を確保できるようにしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動には細心の注意を払っている。日頃から他のユニットに行き来し、入居者・ご家族様と触れあい信頼関係が築けるように努力をしている。  (外部評価) 職員の離職や異動は少なく、開設来の利用者との馴染みの関係が築かれている。管理者は、職員に対して介護のやりがいを伝えることが定着率を高めることにつながるの信念で、職員に向き合っている。		離職を防ぐためにも、スタッフのモチベーションが上がる様な状況をつくれるように、管理者・リーダー等が努めている。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勉強会の参加や、資格取得を積極的に勧めている。法人内でも定期的に、勉強会を開催している。  (外部評価) 研修等により職員の質を高めるような取り組みはなされており、法人内でも組織的に勉強会を開催している。しかし、研修の受講状況には職員間で偏りがみられる。	※	職員のシフト状況は研修の受講状況に差が出ている要因の一つであり、職員数の確保という運営基盤からの考察も必要な時期と考えられる。また、シニア世代の職員が多い傾向にあることから、若い世代の職員の育成にも組織的に関わっていくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 勉強会・研修会等に参加した際に、積極的に情報交換を行い、他施設の良いところを取り入れ、サービスの向上に努めている。		
			(外部評価) 法人の診療所やデイサービス、小規模多機能型事業所などが隣接しているため、法人内の職員同士の交流は日常的にあり、多方面の視点から利用者へのサービスの質の向上を図っている。しかし、他の関係機関等との交流が多いとまでは言えない。	※	他事業所の長所の発見は、利用者への直接的なサービスの向上に有用と考えられるため、地域包括支援センター等と協働して地域内に6~7か所ある他のホームとの交流を深めていく取り組みを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 食事会・レクリエーションを開き、ストレス軽減に努めている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 責任を持たせ、やりがいを持てるよう工夫している。リーダーの育成にも力を入れている。研修費用の事業所負担などでバックアップがあり、職員の質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居者様からの困っていること、不安な事等の相談にしっかり耳を傾け、受け止める努力をしている。聴力の弱い入居者様は、ボードに書く等筆談にて意思疎通を図る、努力をしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ご家族様の負担にならないよう、アセスメントを何回かに分けて行い、思いや希望を聞くようにしている。		納得してもらえるまで、幾度となく見聞の機会を設けている。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) カンファレンス等で、他職種の方にも参加を呼びかけ、意見を聞き、必要な支援を見極めるようにしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 相談を受けてから、見学・体験等をしてもらい、普段の生活されている入居者様とも触れ合える機会をつくり、馴染めるように工夫している。  (外部評価) 同法人にデイサービスや小規模多機能型事業所があることから、利用者が環境に徐々に慣れるような関わりができるが、管理者は、人との関係がその人が馴染むかどうかの重要なポイントであると考えており、職員の対応や場の雰囲気づくりに余念がない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 介護する、介護される関係ではなく、一緒に支えあえるような関係づくりを目指している。  (外部評価) 管理者や職員は、共に支え合うためには利用者と同じ目線であることが重要であると認識している。接し方の基本を「自分に置きかえてみる」におき、絶えず基本に立ち返ることを心がけている。共に過ごすためには「情」が必要であるとの話に高い専門性が感じられる。	※	入居者様に、様々な事を教えてもらう姿勢でケアにあたり、その方の価値観を尊重し、共に支えあう関係を築いていく取り組みをしている。  共に過ごすためには「情」が必要であるとの話は、シニア世代の職員だからこそその人生経験が背景にある言葉であるが、引き継いでいく必要があるため、今後は若い世代の職員の育成にも取り組んでいくことを期待する。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居者・ご家族様、職員が、一緒に何かをする時間をつくり、日常の些細な出来事でも一緒に笑い、話が出来るような関係づくりに、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 入居者・ご家族様が、ゆっくりと楽しく話が出来るような雰囲気づくりと、お互いが必要だといつまでも感じあえるような、環境をつくる工夫をしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの深い場所には、ご家族様の協力を得て出かけたり、馴染みの人には連絡を取ったりして、関係を断ち切らないように努めている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 入居者様個々の性格を把握し、無理強いさせることの無いように、入居者様同士の関わりあいを支援している。		個々の価値観を尊重しながら、共同生活が有意義であるように努力している。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 併設の医療機関や小規模多機能に移行し、在宅生活が始まってからも声かけをし、ホームに遊びに来てもらえるような関係づくりを目指している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人の希望や意向は十分に把握し、暮らしやすい方向になるように支援をしている。本人が困難な場合は、ご家族様からその都度聞き取りをして、意向の把握に努めている。  (外部評価) 管理者や職員は利用者との生活が長く、利用者個々の希望や意向を言葉でなくても把握できる関係ができていたため、認知症が進んでいる利用者に対しても、本人本位の生活支援が行われている。しかし、今後職員が代わった場合に、利用者の理解を深める手段が整っている状態とは言えない。	※	管理者は、センター方式のシートで利用者の情報整理を始めているので、取り組みを進めていくことを期待する。また、利用者の情報は職員が把握していることも多いため、誰でも書き込めるような様式の活用方法の検討を望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) しっかりしたアセスメントを行い、センター方式等も活用し把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々モニタリングを行い、記録に残し現状の把握を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンス時に、ご家族様にも参加してもらえるようになり、意思や要望を取り入れる事により、より入居者様の立場にたった、計画が作成できている。  (外部評価)		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月に1回は計画の見直しを行い、状態の変化に応じて計画の変更を検討している。  (外部評価) 利用者の担当職員が日々の介護記録をミーティング前に1か月分要約し、介護計画と照らし合わせながら利用者の生活を見直している。介護計画の定期的な見直しは3か月となっているが、毎月記録を整理することで客観的な視点をもっており、見直しのタイミングを検討する目安にもなっている。	※	入居者・ご家族様に、見直しが必要であることを説明したうえで、現状に即した介護計画の見直しを行っている。  記録の見直しが全般的な内容となっている傾向があり、介護計画に焦点を当てて見直すとよりよい記録となると思われるので、検討を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) モニタリングを行い、計画の達成度等を記録し、カンファレンスで検討している。		月に1回のミーティング、あるいは申し送り等で情報の共有に努めている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 外泊や在宅での生活を希望する場合などは、身体状況に鑑み、併設の小規模多機能施設に移行し、在宅での生活が送れるように、支援をしている。  (外部評価) 同法人のデイサービスや小規模多機能型事業所、診療所のリハビリテーションなど、多機能な施設のネットワークがあるので、利用者の様々な要望にこたえることができる。診療所の看護師とも連携し、医療的な機能も充実している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 入居者様の意向に応じられるような体制をとり、必要に応じて協力をしている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 入居者様の状況や意向、そして必要性に応じながら、適切なサービスが受けられるよう、支援をしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現在は該当する入居者様はいないが、成年後見制度等活用する必要がある場合などには、対応をしていきたいと思っている。		地域包括支援センターの役割等、より多くの知識を得て、入居者様が地域の中で暮らしていく上で必要となる事の学習を重ねたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 併設している連携医療機関の医師が、週1回往診してくれることにより、信頼関係が築かれている。  (外部評価) 母体診療所の院長が地域医療に力を入れており、利用者もかかりつけ医としての信頼からホームを利用しているケースが多い。かかりつけ医が地域の要請に応じて設立したホームと言え、利用者と院長とは信頼関係が構築されている。		病状・体調の変化時は、医師およびご家族様にも連絡を取り、適切な医療を受けられるように支援をしている。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 併設の連携医療機関の医師が専門医のため、診断や治療は安心して受けることができる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 併設の医療機関とは、日常的に連絡を取り合っている。看護師とも連携がとれている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入居者様が入院した時は、出来るだけ声かけをしに行き、安心感が持てるように努力をしている。日常的に情報交換も行っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居者・ご家族様、およびかかりつけ医等を交えて、納得のいくまで繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。  (外部評価) 運営者の方針で、ホームを終の棲家として位置づけており、ホームと隣接の診療所とは日常的に密な連携がある。利用者のターミナルケアの実践も積んでおり、厳しさや家族の協力の重要性なども理解している。職員には、厳しい勤務体制となることを承知しながら、ターミナルケアの実績が基盤となった余裕が見られる。		入居者・ご家族様の意見を尊重し、終末期のあり方について十分な話し合いをし、全員で方針を共有している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ご家族様・医療機関と連携をとり、医師・看護職・介護職の職員がミーティングをして、協力しながらターミナルケアに取り組む努力をしている。		併設の医療機関が母体なので、密に連絡や相談ができる環境が整っている。また、24時間いつでも連絡を取り合えるようになっている。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 住み替え時には、ご家族様の理解を得て十分な情報提供を行い、ケア関係者間で話し合い、ダメージが防げるように支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人一人に合わせた言葉かけや対応をし、個人情報は外部に漏らさない、持ち出さないよう取り扱いには十分気をつけている。  (外部評価) 意思表示の難しい利用者にも丁寧に言葉かけを行っている。利用者への対応も、個々の状態や生活歴等を踏まえて適宜見直している。利用者に安心感を与えるために、利用者の呼び名一つも職員間で統一しようと話し合いを持っている。個人記録も適切に管理している。		必要に応じ個室や自室で話し合ったり、個人情報は目の触れるところに置かないようにしている。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) ゆっくりと話を傾聴して、できるだけ自己決定してもらい、尊重するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合ではなく、その方に合ったペース、希望を聞きながら支援をしている。個々に行きたいところ、買い物・外食など、希望に沿って支援をしている。  (外部評価) 生活のリズムを守るために一日の大きな流れは決まっているが、利用者に生活を楽しんでもらうということが優先されている。医療的行為やリハビリテーションが必要な利用者にはケアが優先される場合が多いため、職員や診療所のスタッフはゆっくりと利用者を促すような対応を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 身だしなみやお洒落は、入居者様の希望を取り入れ支援をしている。また理美容は行きつけの店へ、ご家族様同伴で行かれています。		行く事が困難な方には、訪問美容師に来所してもらい、お洒落が出来るよう支援をしている。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員が交替で一緒に食事をとっており、可能な入居者様には、準備や片づけ等してもらっている。手作りおやつ等にも参加してもらい、入居者様と一緒に作っている。  (外部評価) 一対一での食事介助が必要な利用者が多いため、全員同時にテーブルに着くことは難しいが、職員は、食事中はもちろん準備や片づけ時にも目配せや声かけを行い、楽しい雰囲気づくりに心がけている。また、準備中の匂いが生活感を醸し出すとの考えから、重介護で職員配置が厳しくなっても手作りにこだわるとの話には、「食事が楽しみ」という利用者の要望に応えようとしている姿勢が感じられる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 現在、お酒やタバコを吸われる入居者様はいないため、おやつ・飲み物は好みの物を状況判断して提供し、楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 入居者様自身の力を活用し、気持ちよく排泄できるよう支援をしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入居者様の希望に応じ、入浴支援を行い、拒む方には拒否の原因を探り無理強いさせることなく、入浴が楽しめるように工夫をしている。  (外部評価) 入浴は、タイミングや回数は利用者の希望に沿うように行われている。管理者は、入浴は身体を清潔に保つこと以外に、本人が安らぎを得る場であり、利用者と職員が信頼関係を構築する場でもあるとして、ケアのポイントとして重要視している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) その時々の状況に応じ、随時安心して気持ちよく休んでもらえるように、支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) できる限り外出の支援を行い、ホーム内では得意な分野を活かし、生活の中で役割が持てるように支援をしている。  (外部評価) 管理者や職員は、一緒に生活している時間の長さから、利用者の好みやできること等について深く把握している。共同生活が基本の中で、時々の気晴らしは個々の生活を保持するために重要であると考えており、身体的条件で動きの難しい利用者に対しては、道化師的な役割も果たしている。		家庭菜園・庭いじり・お花などが楽しめるように支援をしている。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居者の希望や、力に応じて所持したり、使えるように支援をしている。		週2回程、パンの移動販売が来所してくれるので販売時に自分で支払いをしてもらい、お金を使うことに対しての支援をしている。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の体調を見ながら、可能な限り外出支援を行い、季節の移り変わり等を、楽しんでもらっている。  (外部評価) 3ユニットが中庭を三角に囲み、気軽に外気に当たる場所として日常的に活用している。散歩も気晴らしの一環として日課としている。しかし、車いす介助や見守り介助などで一対一での外出が増えてきているため、利用者により外出の頻度に差が出はじめています。職員数やシフトにも限界があり、早めの対策が必要と考えられる。	※	外出支援として老人クラブや民生委員等に協力を依頼するなど、地域資源の有効な活用についての検討を期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 行きたいところの要望を聞き、個別に外出できるように努力をしている。レクリエーション等にて、入居者様に「行って見たい所」等希望を聞き、できる限り希望に沿えるように、スケジュールを組み実施している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族様に連絡がとれるように配慮し、毎月発行するホームの菜の花便りとともに、手紙を同封している。		ご家族様が遠くにいる方には、記念日・誕生日等特別な日、また日常的に電話をかけて支援をしている。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気持ちよく過ごせるよう、雰囲気づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全ての職員が、身体拘束の弊害を十分に理解しており、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入居者・ご家族様に対し、心理的圧迫をもたらさないように、居室や日中の玄関は施錠していない。外玄関は防犯上施錠している。  (外部評価) 調査日は、入居から10日目の利用者が不穏な状態であったため、一つのユニットでリビングの鍵がかけられていたが、一過性であることとその理由を利用者や家族等に説明している。管理者は鍵を外すタイミングを見計らっており、鍵を掛ける弊害は理解している。		基本的に施錠をしない取り組みをしているが、やむをえない場合はご家族様に説明し、同意を得て施錠することもある。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 入居者様個人の、プライバシーに配慮しつつ、さりげなく所在等を把握し、安全に努めている。		居室のドアがスリガラスになっているので、様子が把握しやすいようになっている。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 入居者様一人一人の状態に応じて、物品を使用してもらい、見守りながら危険防止に努めている。特に注意が必要な物品等は、入居者様の目に触れない所に、管理・保管している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 服薬チェック表で確認をとり、入居者様に合わせた事故防止に努めている。誤った服用をしないためにも、服用する際の見守りはしっかり行っている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 日々入居者様の行動を把握し、事故発生時に備え、救命救急や初期対応の訓練を行っている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し、年2回東温消防署の指導と訓練を受けている。また地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。  (外部評価) もしものときの避難には、建物が平屋で周辺もゆっくりとした庭があり、安心感がある。また、防災マニュアルの作成、年二回の消防署との訓練などを行っている。防災については、ホームだけでなく法人全体で地域とともに取り組んでいる。	※	地域の方々の協力が得て、災害時の訓練を一緒に行えるように取り組んでいきたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) リスクマネジメントと虐待は、背中合わせであると理解しており、ご家族様とも十分な話し合いを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調の変化や異常に対し、早期発見出来るよう、常に見守りして、変化に気づいた時は、速やかに対応している。		連携医療機関が併設のため、体調の変化・異変に気づいた時は速やかに医療機関に連絡し、24時間対応ができる体制が整っている。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入居者様個々の服用している薬は把握しており、用法・用量は理解できている。また薬情等により、副作用や注意事項も確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) バランスのとれたおかず、繊維の多い食品を摂取してもらい、水分もしっかり取ってもらうよう、声かけをしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) ハミガキチェック表を使用し、毎食後口腔ケアができていないか記録し、できていない場合は、声かけを行う支援をしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の食事量・栄養のバランス等、栄養士の指導にて必要量摂取できるよう支援をしている。必要な人に対しては毎食の量を計り、一日の摂取量の把握に努めている。  (外部評価) 法人の栄養士による栄養バランスの管理が行われており、旬の食材で食事を提供している。刻み食やとろみ食の利用者に対しても、それぞれのユニットで一人ひとりの状態に合わせて提供している。水分摂取量もチェックしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 仕事に入る前には、感染症のマニュアルに目を通し、作業が変わる事に手洗いを施行している。		併設の医療機関で、月1回の感染症対策の勉強会に出席して勉強している。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 衛生管理を徹底し、安全かつ新鮮な食材を使用して食中毒の予防に努めている。週一回必ず食材チェック・調理施設のチェックを行い、賞味期限の確認、および衛生管理を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 日中は施錠せずに、入居者様の動きを把握し、安全性にも十分配慮している。庭には季節の花、周囲には竹を植え、親しみやすい環境にしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間は、季節感が感じれるように飾りつけを工夫し、居心地のよい生活を、楽しんでもらっている。  (外部評価) 各ユニットとも中庭を面して大きな窓を設えており、デッキを組み合わせた広がりのある共用スペースである。ユニットにより、リビングが吹き抜けで空間的にもゆとりがある。居室前の廊下も掃き出しの窓があり、ひとつの居場所としても活用できる。		ホームから一步出ると、中庭が広がっておりその中庭を包み込むような、平屋建ての構造になっています。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 少し広めのソファやイスを縁側に置き、くつろげる空間をつくっている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 昔から使い慣れた物や、思い出の品を持ち込んでもらい、居室で居心地良く過ごせるように工夫している。ご家族様にはその都度声かけをして、持ってきてもらっている。  (外部評価) 利用者により、ホームが用意したもの、自分が持ってきたものと様々な部屋があるが、どの部屋も温かみのある設えである。家族の写真や手作りの作品などで個性豊かなインテリアとなっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気には十分に気を配り、温度調節もあくまで、入居者様の立場に立って行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・風呂場・廊下、玄関等に手すりを設け、安全に移動できるようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 失敗させない環境・状況をつくり、自信が持てるよう支援をしている。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やバルコニーを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物の周りには植物を植え、中庭には季節の花を植えて、入居者様と一緒に水やりを行っている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	入居者様一人一人の思いや願いを聞き入れ、リラックスした毎日を送ってもらっている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	入居者様が喜んでもらえるように、懐かしい唄を唄ったりすると生き生きして笑顔も出てきます。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人一人の希望に合わせて寛いでもらい、生き生きとした暮らしが送れている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者様一人一人の対応を考えながら支援をしていき、生き生きとした表情や姿を見ることが出来る。喜怒哀楽の感情表現が豊かにできている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者様個別の可能な限りの希望に沿った所へ外出できるように支援をしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	連携医療機関と併設の為、健康面・医療面・安全面において安心して過ごさせている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望・希望等を出来る限り取り入れ満足し、安心して過ごさせている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ご家族様の意見、要望はよく聞き入れ十分に満足してもらっており、信頼関係は出来ている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	知人、友人が来所され、入居者様と一緒にホール又は自室で楽しく談笑されている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の方々が遊びに来たり、気軽に立ち寄ってくれるよう取り組んでいる。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	無理の無い範囲でローテーションを組み、日々楽しく仕事が出来ていると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声かけをして意見・要望等を十分に取り入れていると思うので満足されていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ご家族様が来所されたときには十分に話を聞き、信頼関係が築けていると思う。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

医療機関が併設のため、ご家族様からは「とても安心する」という意見を良く聞きます。

立地条件も良く、広い中庭で思い思いにゆったりと時間を過ごすことができ、季節の花を植えて一緒に水やりをしたり、眺めて季節感を味わうことができます。

また、中庭では主に年4回、地域の方々も招待して行事をしています。

行事は沢山のご家族様・近隣の方が集まり、とても楽しいと評判です。

行事の準備段階より、入居者様とご家族様が料理を作ったり飾りつけをするなど、普段はなかなかできない触れあいもあって、大切な時間となっています。

月に1回生け花の先生が入居者様と一緒に生け花をしたり、三味線・お琴のボランティアの方やプロの歌手の慰問など生活に変化もあり、職員も家族同様に一緒に楽しんでます。

入居者様の人生に関わらせていただく喜びを胸に、毎日精一杯の介護をさせていただいています。



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム菜の花

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)  
氏名 井出 美智子

評価完了日 平成 20 年 6 月 1 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) その人らしく暮らしていけるよう、事業所独自の理念をつくりあげている。  (外部評価) 母体の診療所が地域に密着した医療活動を行っており、その一環としてホームの運営がなされている。そのため、ホームの理念には、「地域」というキーワードは開設当初から組み込まれ、運営の基盤となっている。		職員全員で話し合い、皆が納得のいく理念をつくっている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 毎朝の朝礼で運営理念を唱和して、理解を深めている。  (外部評価) 管理者や職員との話し合いでは言葉に迷いがなく、利用者へのケアの質を向上させようとする意気込みを感じることができる。そのベースには理念の理解と共有があり、理念の実践を行うために、日常的に話し合いが持たれていることが分かる。		日々、理念および勤務マニュアルを唱和し、職員一同が同じ目標に向かっていけるようにしている。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 毎月1回、菜の花便りをご家族・地域にも発行している。運営推進委員会でも、報告して理解をしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近隣の幼稚園・小学校・公的機関等と交流を深めている。行事がある時は、地域の施設・スーパー等に告知して、参加を呼びかけている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近隣の商店等と交流を行い、行事等の参加の呼びかけに、努めている。また、日常的な付き合いだけでなく、広く意見を求めることもしている。  (外部評価) 近接している小学校や老人クラブとの交流が開設当初から行われている。また、地域の清掃活動などにも積極的に参加している。しかし、近隣に民家が少ないこともあり、ご近所付き合いという関係が地域と持っているとまでは言えない。また、母体診療所とともに地域との交流を深めてきた経緯があるが、ホーム独自のより深い地域との交流が求められている。	※	地域の自治会・老人会などの行う清掃などに、参加できるように、先方から案内をもらい、可能な入居者様に、参加いただいている。  ホームが小学校の通学路にあるという立地を活かして利用者が子どもたちの登下校を見守る等の地域貢献に取り組んだり、職員が黒子となって利用者が主役のちょっとしたご近所付き合いができるような日常的な交流を支援するなどの取り組みを期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域のボランティア活動等を、包括支援センターや市役所に問い合わせ、取り組む努力をしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の介護の振り返りを行える機会であると、職員全員が認識しており、会議等で反省点をあげサービスの質の向上につなげている。  (外部評価) 職員全員で評価項目を話し合ったものをユニットリーダーがまとめ、管理者がコメントを添えるという過程を経て自己評価を行っている。管理者も職員も評価の意義を理解しており、一年間の振り返りという意味をこめて真摯な態度で取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回地域の代表の方々、ご家族様等に集まっていただき、話し合いのうえサービスの質の向上に努めている。  (外部評価) 運営推進会議は回数を重ね、利用者や家族の参加も頻繁にあることから、ホームの運営に定着していることがうかがえる。ただ、併設している小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行っていることから全般的な議題になる傾向があり、ホームの利用者に対する直接的な話し合いが持たれているとまでは言えない。	※	地域の方々の声が直接聞けるので、大事な意見はホームに持ち帰り、職員間で話し合いをして、向上に努めている。  地域の民生委員等の参加もお願いし、利用者と地域住民がふれあえる機会を増やせるような会議の運営についての検討を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村に出向き、介護だけでなく地域の様々なサービスの情報を聞き、ホームで役立てている。  (外部評価) 市は、地域包括支援センターにグループホームの窓口を一任しており、地域包括支援センターと運営推進会議以外にも連携を図るよう積極的に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は該当者はいないが、県・市の勉強会に出させていただき制度の理解は進んでいる。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会等で学ぶ機会を持ち、ホームの全職員にフィードバックして、高い意識を持ち防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所契約時、十分な時間を取り説明を行い、理解を得られるように努めている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談・苦情窓口を設置して対応をしている。口頭でも入居者様が気軽に申し出せる体制が整っている。		苦情受付先・担当を施設内に掲示しており、申し出しやすい雰囲気づくりをしている。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 月に1度は生活状況・健康状況等、変化のある無しに関わらず、詳しく説明をしている。また金銭管理簿の報告をして、ご家族様にサインをもらっている。  (外部評価) 近隣に居住している家族が多く、面会も頻繁にある。管理者や担当職員はその度に近況報告を行っており、月に一回の定期報告でも金銭管理等について書面で報告している。また、遠方の家族へは、定期報告以外にも電話等で利用者の状況報告を行っている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談・苦情窓口を設置して対応をしている。口頭でも入居者・ご家族様が、気軽に申し出る体制が整っている。  (外部評価) 家族の意見や苦情は、まず利用者の担当職員が受けるようにしている。管理者は、家族は苦情など言い出し難いものであると理解しているため、その受け皿として対応するように努めている。また、法人事務長も機会あるごとに家族に積極的に話しかけ、意見等を聞き、法人として苦情や意見に対応するシステムを構築している。		苦情相談員を配置し、その都度ケース会議等を開催している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングや毎朝の朝礼時など、個々の職員が発言できる機会を設け、反映させている。		1ヶ月に1回、必ず職員のミーティングを開催している。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 特別な行事・外出時等、必要に応じた職員数を確保できるように、努めている。		申し送りノートの活用、当番を決めるなどの役割分担で作業効率をあげ、勤務調整できるように努力している。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの関係が、できる限り続くように、異動には細心の注意を払っている。  (外部評価) 職員の離職や異動は少なく、開設来の利用者との馴染みの関係が築かれている。管理者は、職員に対して介護のやりがいを伝えることが定着率を高めることにつながるとの信念で、職員に向き合っている。		管理者が職員個々の性格等を把握して、やむをえない場合は、ダメージを必要最小限に抑えるように、工夫している。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 県・市の勉強会や、資格取得等に積極的に参加して、前向きに人を育てる環境ができている。  (外部評価) 研修等により職員の質を高めるような取り組みはなされており、法人内でも組織的に勉強会を開催している。しかし、研修の受講状況には職員間で偏りがみられる。	※	管理者からの通知、もしくは自主的に研修会、法人内の勉強会に、参加できる体制がある。  職員のシフト状況は研修の受講状況に差が出ている要因の一つであり、職員数の確保という運営基盤からの考察も必要な時期と考えられる。また、シニア世代の職員が多い傾向にあることから、若い世代の職員の育成にも組織的に関わっていくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 勉強会・研修会に参加した時に積極的に情報交換を行い、他施設の良いところを取り入れ、サービスの質の向上に努めている。		
			(外部評価) 法人の診療所やデイサービス、小規模多機能型事業所などが隣接しているため、法人内の職員同士の交流は日常的にあり、多方面の視点から利用者へのサービスの質の向上を図っている。しかし、他の関係機関等との交流が多いとまでは言えない。	※	他事業所の長所の発見は、利用者への直接的なサービスの向上に有用と考えられるため、地域包括支援センター等と協働して地域内に6~7か所ある他のホームとの交流を深めていく取り組みを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員同士で、気軽に話や付き合いができるよう、職場外で食事会等の機会を設けている。		法人内の季節の行事等に参加し、相互理解を深め働きやすい、職場環境をつくるよう努めている。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 研修費用の事業所負担など、運営者からの支援を受け、職員が向上心を持って働けるように努めている。		職員の意識向上の為、研修会等への参加が、積極的にできるよう支援している。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 最初のアセスメント以降も、常に耳を傾け話をし、言葉にならないニーズも見逃すことなく、できる限り入居者様を理解する努力をしている。生活史についても詳しく知るよう努力している。		アセスメント作成時、入居者様の希望等、深いところまで気づくよう、また言葉にならないサインにも目配り・気配りをして、気づく努力をしている。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会時等に、ご家族様のニーズを、職員がさりげなく聞きだせるよう努力している。		ご家族様との信頼関係を密にし、気軽に話し合えるように努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントをしっかり行い、カンファレンス等ではケアマネージャーや、他職種の方にも参加を呼びかけ、必要な支援を見極めるようにしている。		ケアマネージャー・職員間で話し合い、入居者様個々に合わせた支援ができるよう、努めている。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 相談を受けた際、ホームの見学や職員・他の入居者様と一緒に食事を食べてもらうなど、雰囲気に馴染めるように工夫している。また、体験利用も受け入れている。  (外部評価) 同法人にデイサービスや小規模多機能型事業所があることから、利用者が環境に徐々に慣れるような関わりができるが、管理者は、人との関係がその人が馴染むかどうかの重要なポイントであると考えており、職員の対応や場の雰囲気づくりに余念がない。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 介護する、される関係ではなく、同じ目線で寄り合いながら、共に生活をして、支えあうような関係づくりを目指している。  (外部評価) 管理者や職員は、共に支え合うためには利用者と同じ目線であることが重要であると認識している。接し方の基本を「自分に置きかえてみる」におき、絶えず基本に立ち返ることを心がけている。共に過ごすためには「情」が必要であるとの話に高い専門性が感じられる。	※	様々な事を教えてもらうという、謙虚な姿勢でケアにあたり、入居者様の価値観を尊重し、支えあう関係をつくる努力をしている。  共に過ごすためには「情」が必要であるとの話は、シニア世代の職員だからこそその人生経験が背景にある言葉であるが、引き継いでいく必要があるので、今後は若い世代の職員の育成にも取り組んでいくことを期待する。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族様の話をお聴し、価値観が共有しあえる関係づくりが、できるように支援をしている。		ご家族様と、情報交換をしながら、支援を行っている。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 入居者・ご家族様が、ゆっくり楽しく話ができるような雰囲気づくりと、お互いに必要だといつまでも感じあえるような、環境をつくる支援をしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 自宅・自宅近くの馴染みの店等に、ご家族様の協力を得て出かけたり、入居者様との関係が、途切れないように配慮をしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 個々の感性・価値観を尊重し、共同生活がマイナスとにならないように工夫している。		時には、職員も会話の中に入り、同じ話題で支えあい孤立しないよう、支援している。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 併設の医療機関や、小規模多機能に移行し在宅生活が始まっても、声かけをしてホームに遊びに来てもらえるような、関係づくりを目指している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者様の生活履歴を把握し、希望・意向に沿った生活ができるよう支援をしている。  (外部評価) 管理者や職員は利用者との生活が長く、利用者個々の希望や意向を言葉でなくても把握できる関係ができていたため、認知症が進んでいる利用者に対しても、本人本位の生活支援が行われている。しかし、今後職員が代わった場合に、利用者の理解を深める手段が整っている状態とは言えない。	※	入居者様の意思伝達が困難な場合は、ご家族様と話し合い、意向を把握して、その方らしい生活が送れる支援をしている。  管理者は、センター方式のシートで利用者の情報整理を始めているので、取り組みを進めていくことを期待する。また、利用者の情報は職員が把握していることも多いため、誰でも書き込めるような様式の活用方法の検討を望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 十分なアセスメントを行い、入居者様を良く知る努力をしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 出来ること、出来ないことの把握をして、入居者様の生活の質が良くなるように支援している。日々、モニタリングして記録に残している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) カンファレンス等、ご家族様の参加により、具体的な意見や要望を取り入れ、より入居者様の立場にたった計画作成ができるようになった。  (外部評価)		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 計画期間・急激な変化に応じ、計画の見直しを適時行っている。  (外部評価) 利用者の担当職員が日々の介護記録をミーティング前に1か月分要約し、介護計画と照らし合わせながら利用者の生活を見直している。介護計画の定期的な見直しは3か月となっているが、毎月記録を整理することで客観的な視点をもっており、見直しのタイミングを検討する目安にもなっている。	※	入居者・ご家族様に、見直しが必要である場合は、現状に合った介護計画の内容を説明し、同意を得て新しい計画をたてている。  記録の見直しが全般的な内容となっている傾向があり、介護計画に焦点を当てて見直すよりよい記録となると思われるので、検討を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 月に1回、ユニットごとのミーティングと、全ユニットのミーティングを開催している。また、申し送り等で情報の共有に、努めている。		日々の生活状況等、観察記録を活用し、介護計画の見直しをしている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 外泊や在宅での生活を希望される場合などは、身体状況に鑑み、併設の小規模・多機能に移行し、在宅での生活が送れるよう支援をしている。  (外部評価) 同法人のデイサービスや小規模多機能型事業所、診療所のリハビリテーションなど、多機能な施設のネットワークがあるので、利用者の様々な要望にこたえることができる。診療所の看護師とも連携し、医療的な機能も充実している。		常に小規模多機能とは連携を取り、情報交換をしている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 毎日の生活の中で必要となるものは、連携を図っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 入居者様の状況・意向に応じ、適切なサービスが受けられるように支援をしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現在、該当する入居者様はいないが、成年後見制度等が必要となる場合は、制度が活用できるよう環境を整える努力をしている。	※	地域包括支援センターの役割等、より多くの知識を得て、入居者様が地域の中で暮らしていくうえで、必要となる学習を重ねたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 併設している連携医療機関の、週1回の往診等により、ご家族様・医師との連携をとり、信頼関係を築いている。  (外部評価) 母体診療所の院長が地域医療に力を入れており、利用者もかかりつけ医としての信頼からホームを利用しているケースが多い。かかりつけ医が地域の要請に応じて設立したホームと言え、利用者と院長とは信頼関係が構築されている。		病状・体調の変化時は、医師およびご家族様にも連絡を速やかにとり、適切な医療が受けられるよう、支援している。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 併設の医療機関の医師が専門医のため、診断や治療は安心して受けられる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 併設している連携医療機関と、常に連絡をとりあっている。		日常の健康管理や、医療活用を密に連絡をとりあいながら、支援をしている。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 併設している医療機関と連絡をとりあい、入院時も早期の退院を目指し、日常生活に戻れるよう、努力する支援をしている。入院中は、頻繁に声かけをしに行き、安心感がもてるようにしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 連携医療機関が併設なので、ご家族・医師と話し合い、ターミナルケアを目指している。  (外部評価) 運営者の方針で、ホームを終の棲家として位置づけており、ホームと隣接の診療所とは日常的に密な連携がある。利用者のターミナルケアの実践も積んでおり、厳しさや家族の協力の重要性なども理解している。職員には、厳しい勤務体制となることを承知しながら、ターミナルケアの実績が基盤となった余裕が見られる。		入居者様・ご家族様の意見を尊重し、終末期のあり方について十分な話し合いをし、全員で方針を共有している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 連携医療機関・ご家族様と連携をとりながら、医師、看護職、介護職の職員がミーティングをし、協力のうなターミナルケアに取り組む努力をしている。		連携医療機関とは、24時間いつでも連絡がとれるようになっている。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 住み替え時には、ご家族様の理解を得て十分な情報提供を行い、ケア関係者間で話し合いダメージが防げるように支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個々に合わせた言葉遣いや対応をし、個人の情報等は外部に漏らさない、持ち出さないように徹底している。  (外部評価) 意思表示の難しい利用者にも丁寧に言葉かけを行っている。利用者への対応も、個々の状態や生活歴等を踏まえて適宜見直している。利用者に安心感を与えるために、利用者の呼び名一つも職員間で統一しようと話し合いを持っている。個人記録も適切に管理している。		ご家族様の来所時等、必要に応じて個室で話し合ってもらう等、個人情報・書類等は持ち出しは禁止になっている。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) できる限り、自己決定できる場面をつくり、納得して暮らせるように支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合ではなく、その方に合ったペース、希望を聞きながら支援している。  (外部評価) 生活のリズムを守るために一日の大きな流れは決まっているが、利用者に生活を楽しんでもらうということが優先されている。医療的行為やリハビリテーションが必要な利用者にはケアが優先される場合が多いため、職員や診療所のスタッフはゆっくりと利用者を促すような対応を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 衣類等は、入居者様の希望を取り入れ、理美容は行きつけの店に行く、また訪問等の地域のインフォーマルサービスを活用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 介助を必要とするご入居者様が多いため、一緒に食事を摂るのは難しい。全員とはいかないが、可能な職員と一緒に食事をしたり、準備や片付けをしている。  (外部評価) 一対一での食事介助が必要な利用者が多いため、全員同時にテーブルに着くことは難しいが、職員は、食事中はもちろん準備や片づけ時にも目配せや声かけを行い、楽しい雰囲気づくりに心がけている。また、準備中の匂いが生活感を醸し出すとの考えから、重介護で職員配置が厳しくなっても手作りにこだわるとの話には、「食事が楽しみ」という利用者の要望に応えようとしている姿勢が感じられる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒・タバコを希望される方は現在いないが、飲み物・おやつは、その方の好みに合ったものを提供して楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 個々の力や排泄パターンを把握し、自尊心を傷つけないように支援をしている。		失敗してもさりげなくフォローをし、自尊心を傷つけないように工夫をして、気持ちよく排泄出来るように支援している。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入居者様の希望に応じ入浴支援を行い、拒む方には拒否の原因を探り、無理強いさせることなく、入浴が楽しめるように支援をしている。  (外部評価) 入浴は、タイミングや回数は利用者の希望に沿うように行われている。管理者は、入浴は身体を清潔に保つこと以外に、本人が安らぎを得る場であり、利用者と職員が信頼関係を構築する場でもあるとして、ケアのポイントとして重要視している。		ひとりひとりの、生活パターンに合った入浴が楽しめるよう、支援している。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はできる限り、遊びリテーションや趣味等で活動的に過ごしてもらい、昼夜逆転を防ぎ安心して気持ちよく眠れるように、支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 個々の得意な分野を活かし、生活の中で役割が持てるように支援をしている。  (外部評価) 管理者や職員は、一緒に生活している時間の長さから、利用者の好みやできること等について深く把握している。共同生活が基本の中で、時々気晴らしは個々の生活を保持するために重要であると考えており、身体的条件で動きの難しい利用者に対しては、道化師的な役割も果たしている。		掃除・洗濯・配膳等、個々の能力に応じ、できるだけ楽しく生きがいをもって、暮らせる支援をしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居者様の能力に応じ、お金を所持して意味や使用するというのを、忘れないように支援している。		近所のスーパー等で買い物をする時、入居者様の手にお金を渡し、支払いをしてお釣りをもらうという、お金の大切さ・意味を理解してもらっている。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の体調を見ながら、可能な限り外出支援を行い、季節の移り変わりを楽しんでもらっている。  (外部評価) 3ユニットが中庭を三角に囲み、気軽に外気に当たる場所として日常的に活用している。散歩も気晴らしの一環として日課としている。しかし、車いす介助や見守り介助などで一対一での外出が増えてきているため、利用者により外出の頻度に差が出はじめている。職員数やシフトにも限界があり、早めの対策が必要と考えられる。	※	外出支援として老人クラブや民生委員等に協力を依頼するなど、地域資源の有効な活用についての検討を期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 時間をつくり、身体状況等を考慮したうえで、調整をして出かけられる支援をしている。		普段外出ができない入居者様は、時々ご家族様同伴で外出ができるよう、協力してもらっている。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 要望がある方には支援を実施しており、無い方にも関係が途切れないよう、声かけし支援をしている。		誕生日会や行事等は、ご家族様に案内状を送り支援をしている。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気持ちよく過ごせる、雰囲気づくりをしている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全ての職員が身体拘束の弊害を理解をしており、禁止の対象となる行為をしないようにしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入居者様・ご家族様に、心理的圧迫を与えないように、居室や日中の玄関は施錠していない。 外玄関は不審者の侵入を防ぐなど、入居者様の防犯・安全上施錠している。  (外部評価) 調査日は、入居から10日目の利用者が不穏な状態であったため、一つのユニットでリビングの鍵がかけられていたが、一過性であることとその理由を利用者や家族等に説明している。管理者は鍵を外すタイミングを見計らっており、鍵を掛ける弊害は理解している。		基本的に施錠はしない取り組みをしているが、やむをえない場合はご家族様に説明をし、理解を得られるように努めている。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 居室の扉が半透明なので、入居者様が居室側から鍵をかけて休まれる場合でも、居室の中の様子を定期的に観察している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 入居者様の状態に応じて見守り、声かけし対応をしている。		特に注意が必要な物などは、入居者様の目に触れない所に管理・保管している。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 服薬チェック表をつくり毎回確認をしており、事故防止のための勉強会も開催するなど、取り組んでいる。		食事は入居者様の状況に応じて、キザミ・ミキサー食等にするなど、工夫している。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救命救急等の、勉強会を定期的に行い、急変や事故発生時に日頃から備えている。		東温消防署より、年1回救命救急の講習を開催してもらい、職員全員が緊急時に対応できるように勉強をしている。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し、年2回東温消防署の指導、および訓練を受けている。地域の方々の協力も得られるように働きかけている。  (外部評価) もしものときの避難には、建物が平屋で周辺もゆっくりとした庭があり、安心感がある。また、防災マニュアルの作成、年二回の消防署との訓練などを行っている。防災については、ホームだけでなく法人全体で地域とともに取り組んでいる。	※	地域の方々の協力を得て、災害時の訓練を一緒に行えるように、取り組んでいきたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時に起こりうるリスクについては、ご家族様に説明し、納得してもらえよう努力している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調の変化や異常に対し早期発見できるよう、常に見守りをして、変化に気づいた時は、速やかに対応をしている。		連携医療機関が併設のため、体調の変化や異常に気づいた時は、速やかに病院へ連絡をし、24時間対応できる体制が整っている。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入居者様、個々の服用している薬は把握しており、用法・用量なども理解できている。また薬情等により、副作用や注意事項も確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 入居者様の便秘の原因、排泄の状況を理解し、予防と対策に取り組んでいる。		バランスのとれたおかず、繊維の多い食品を摂取してもらい、水分もしっかり摂取してもらえるよう、確認表を使用し取り組んでいる。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 歯磨きチェック表を使用し、毎食後口腔ケアができていないか記録し、できていない方には声かけをし、ケアしている。		居室に、口腔ケアチェック表を貼り、入居者様自身にも意識してもらえるよう、工夫をしている。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の食事量、栄養のバランス等、栄養士の指導にて、必要量を摂取できるよう支援をしている。  (外部評価) 法人の栄養士による栄養バランスの管理が行われており、旬の食材で食事を提供している。刻み食やとろみ食の利用者に対しても、それぞれのユニットで一人ひとりの状態に合わせて提供している。水分摂取量もチェックしている。		入居者様の好き嫌い等も把握して、バランスよく食事が摂れるよう支援をしている。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 併設の医療機関で行う、月1回の感染症対策委員会に出席させてもらい、理解を深めている。また感染症マニュアルを、定期的に全職員が確認している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 新鮮な食材を使用し、食中毒の予防に努めている。調理器具等はマニュアルに沿って衛生管理している。また定期的に事前の検食も実施している。		週1回必ず、食材チェック・調理施設のチェックを行い、賞味期限の確認や衛生管理を、徹底している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 日中は施錠せずに、入居者様の動きを把握し、安全性にも十分配慮している。		庭には季節の花、周囲には竹を植え、親しみやすい雰囲気になるよう、工夫している。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 畳の敷いてあるスペース、座って庭を眺められるソファの配置など、ゆったりと過ごせる空間をつくる工夫をしている。  (外部評価) 各ユニットとも中庭を面して大きな窓を設えており、デッキを組み合わせた広がりのある共用スペースである。ユニットにより、リビングが吹き抜けで空間的にもゆとりがある。居室前の廊下も掃き出しの窓があり、ひとつの居場所としても活用できる。		ホームから一步出ると、明るい庭が広がっており、そこから差し込むやわらかい日差しが、包み込む「家」の構造になっている。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 個々の思いが叶うように、工夫をしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 長い間使い慣れたもの、思い出の品等を持ち込んでもらい、居心地良く過ごせる工夫をしている。  (外部評価) 利用者により、ホームが用意したもの、自分が持ってきなものと様々な部屋があるが、どの部屋も温かみのある設えである。家族の写真や手作りの作品などで個性豊かなインテリアとなっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 天気の良い日などは毎朝窓を開放し、空気の入替えをしている。入居者様の感覚に合わせた温度調節を行い、快適に過ごせるよう努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・風呂場・廊下・玄関等に手すりを設け、安全に移動できるようにしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 失敗させない環境をつくり、自信が持てるよう支援をしている。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物の周りには植物、中庭には季節の花を植えて、入居者様と水やりを一緒にするなど、楽しんでいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価)	① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	十分なアセスメントで生活史等も把握しそれと日頃のご家族様からの聞きとりで思いは掴んでいる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価)	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	入居者の方々と一緒に、昔懐かしい歌を唄ったり、お話をしたりと、入居者の方々とゆっくり過ごす時間を大事にしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々の価値観・生活観を尊重し、職員の都合になることのないように支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々の性格・感情を把握し、個別支援を行うことにより、自信を持ち生き生きとした表情をみることが多い。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	身体状況によりなかなか外出が難しい方もいるが、出来る限り外の空気に触れられるよう近所の散歩等を積極的に行っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	併設している連携医療機関との連絡は、しっかり取れていて健康管理等不安なく過ごしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	事業所としてできることは行い、外泊や在宅復帰等も含め柔軟な対応をするように心がけている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価)	① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族さんが意見・要望を言いやすい雰囲気を作り苦情箱等も設置している。何でも話し合える関係作りが出来ている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価)	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	知人・友人さん等来所され、畑で取れた作物を持ってきて貰える事もある。馴染みの関係がとぎれないように電話等で来所を呼びかけている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議を何回か行いグループホームの理念や目指していることへの理解は進んだと思う。これからはメンバーに行事等に参加してもらいもっと理解が深まるように努力していきたい。
98	職員は、活き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	事業所として資格取得や研修参加に積極的であり、皆が理念に基づき介護を行い方向性を一つにする事ができ、高いモチベーションを持ち働いていると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の方のなにげない安心した笑顔が、日々みられるようにケアしていて、笑い声・笑顔が多いと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ご家族の方から感謝の言葉もあり、要望や意見などもたくさん気兼ねなく言ってくださり信頼関係は築けていると思う。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

医療機関が併設のため、ご家族様からは「とても安心する」という意見を良く聞きます。

立地条件も良く、広い中庭で思い思いにゆったりと時間を過ごすことができ、季節の花を植えて一緒に水やりをしたり、眺めて季節感を味わうことができます。

また、中庭では主に年4回、地域の方々も招待して行事をしています。

行事は沢山のご家族様・近隣の方が集まり、とても楽しいと評判です。

行事の準備段階より、入居者様とご家族様が料理を作ったり飾りつけをするなど、普段はなかなかできない触れあいもあって、大切な時間となっています。

月に1回生け花の先生が入居者様と一緒に生け花をしたり、三味線・お琴のボランティアの方やプロの歌手の慰問など生活に変化もあり、職員も家族同様に一緒に楽しんでます。

入居者様の人生に関わらせていただく喜びを胸に、毎日精一杯の介護をさせていただいています。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム菜の花

(ユニット名) ひまわり

記入者(管理者)  
氏名 井出 美智子

評価完了日 平成 20 年 6 月 1 日



(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) その人らしく暮らし続けていけるよう、事業所独自の理念を作り上げている。  (外部評価) 母体の診療所が地域に密着した医療活動を行っており、その一環としてホームの運営がなされている。そのため、ホームの理念には、「地域」というキーワードは開設当初から組み込まれ、運営の基盤となっている。		職員全員が、納得のいく理念を作成している。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 毎朝運営理念を唱和し、実践に向けて取り組んでいる。  (外部評価) 管理者や職員との話し合いでは言葉に迷いがなく、利用者へのケアの質を向上させようとする意気込みを感じることができる。そのベースには理念の理解と共有があり、理念の実践を行うために、日常的に話し合いが持たれていることが分かる。		日々、理念及び勤務マニュアルを職員一同、確認しあい、同じ目標を持って取り組んでいる。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 毎月1回菜の花便りを発行している。地域の人に理解してもらえるように、取り組んでいる。		地域の幼稚園児等と交流を持ち、催し物があれば、スーパー等への告知もお願いしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近くの幼稚園・小学校の生徒に、気軽に立ち寄ってもらえるよう努めている。	※	幼稚園・小学校との交流ばかりではなく、近隣の人達が気軽に立ち寄れるように、努めている。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近隣の商店・学校等と交流を行い、また地域の活動に積極的に参加するよう、努めている。 日常的にも交流は増えたと思う。  (外部評価) 近接している小学校や老人クラブとの交流が開設当初から行われている。また、地域の清掃活動などにも積極的に参加している。しかし、近隣に民家が少ないこともあり、ご近所付き合いという関係が地域と持っているとまでは言えない。また、母体診療所とともに地域との交流を深めてきた経緯があるが、ホーム独自のより深い地域との交流が求められている。	※	ホームが小学校の通学路にあるという立地を活かして利用者が子どもたちの登下校を見守る等の地域貢献に取り組んだり、職員が黒子となって利用者が主役のちょっとしたご近所付き合いができるような日常的な交流を支援するなどの取り組みを期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域のボランティアの方達と、活動的に話しあっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の介護の振り返りを行える機会であると、スタッフ全員が認識しており、会議等で反省点を挙げ、改善に取り組み、サービスの質の向上に努めている。  (外部評価) 職員全員で評価項目を話し合ったものをユニットリーダーがまとめ、管理者がコメントを添えるという過程を経て自己評価を行っている。管理者も職員も評価の意義を理解しており、一年間の振り返りという意味をこめて真摯な態度で取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回地域の代表の方々が集まって、話し合いを行い評価や改善点等の意見を頂き前向きに取り組んでいる。	※	地域の方々の意見が直接聞けるので、助かる。いただいた意見はホームに持ち帰り、職員が検討し、サービス向上に活かしている。
			(外部評価) 運営推進会議は回数を重ね、利用者や家族の参加も頻繁にあることから、ホームの運営に定着していることがうかがえる。ただ、併設している小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行っていることから全般的な議題になる傾向があり、ホームの利用者に対する直接的な話し合いが持たれているとまでは言えない。		地域の民生委員等の参加もお願いし、利用者と地域住民がふれあえる機会を増やせるような会議の運営についての検討を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村に出向き、介護だけでなく地域の様々なサービスの情報を聞き、ホームで役立てている。		
			(外部評価) 市は、地域包括支援センターにグループホームの窓口を一任しており、地域包括支援センターと運営推進会議以外にも連携を図るよう積極的に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 県・市主催の勉強会に出席しているので、制度の理解は進んでいる。		実際に活用する機会はまだないが、今後必要な事があれば積極的に活用したい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 県の行う講習に参加して、職員全員理解は浸透している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、わかり易く十分な説明をして、入居者・ご家族に理解いただいている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談窓口・担当を設置し、気軽に申し出できる、環境を整えている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 月に1回、「菜の花便り」の発行、及び来所時に、日々の生活状況を報告している。  (外部評価) 近隣に居住している家族が多く、面会も頻繁にある。管理者や担当職員はその度に近況報告を行っており、月に一回の定期報告でも金銭管理等について書面で報告している。また、遠方の家族へは、定期報告以外にも電話等で利用者の状況報告を行っている。		1ヶ月に1回、生活状況・健康状況等変化があるなしに関わらず、詳しく説明している。 また面会時、金銭管理簿にサインをもらっている。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談・苦情窓口、担当を設置し、気軽に申し出できる、環境を整えている。  (外部評価) 家族の意見や苦情は、まず利用者の担当職員が受けるようにしている。管理者は、家族は苦情など言い出し難いものであると理解しているため、その受け皿として対応するように努めている。また、法人事務長も機会あるごとに家族に積極的に話しかけ、意見等を聞き、法人として苦情や意見に対応するシステムを構築している。		苦情相談員も設置し、ケース会議等を開催している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングや朝礼、申し送り時などに、職員が気軽に発言できる、環境を整えている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 状況の変化に応じた職員数が確保できるよう、日頃から話し合い、勤務の調整を行っている。		申し送りノートを活用し、職務の分担を行っている。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの関係が続くよう、異動には細心の注意を払っている。職員が全ユニットの入居者・ご家族様と交流し、顔馴染みになれるよう努めている。  (外部評価) 職員の離職や異動は少なく、開設来の利用者との馴染みの関係が築かれている。管理者は、職員に対して介護のやりがいを伝えることが定着率を高めることにつながるとの信念で、職員に向き合っている。		管理者が、職員個々の性格を把握し、ダメージを必要最小限に抑えるよう、工夫している。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 県、市の勉強会には進んで参加している。  (外部評価) 研修等により職員の質を高めるような取り組みはなされており、法人内でも組織的に勉強会を開催している。しかし、研修の受講状況には職員間で偏りがみられる。	※	自主的に研修会や勉強会に、参加できる体制がある。  職員のシフト状況は研修の受講状況に差が出ている要因の一つであり、職員数の確保という運営基盤からの考察も必要な時期と考えられる。また、シニア世代の職員が多い傾向にあることから、若い世代の職員の育成にも組織的に関わっていくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 勉強会・研修会等に参加時、積極的に情報交換を行い、他施設の良いところを取り入れ、サービスの質の向上につなげている。  (外部評価) 法人の診療所やデイサービス、小規模多機能型事業所などが隣接しているため、法人内の職員同士の交流は日常的にあり、多方面の視点から利用者へのサービスの質の向上を図っている。しかし、他の関係機関等との交流が多いとまでは言えない。	※	他事業所の長所の発見は、利用者への直接的なサービスの向上に有用と考えられるため、地域包括支援センター等と協働して地域内に6~7か所ある他のホームとの交流を深めていく取り組みを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 季節に応じ、職場外で食事会などを行い、コミュニケーションがとれるようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の意識向上のため、研修会への参加を運営者は、積極的にバックアップしている。 資格取得にも積極的である。		研修会費を事業所が負担するなど、バックアップし、職員の質の向上に努めている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 最初のアセスメント以降も話し合いをし、できる限り入居者様を理解するよう、努力している。入居者様の生活史もできる限り詳しく聞き、性格や価値観等を理解するように努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 何度も面会を行い、話し合いをし、ニーズに沿えるよう努力している。		ご家族との信頼関係を密にし、気軽に話し合えるよう、努めている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 十分なアセスメントを行い、ケアマネや他職種の方々とも相談し、判断するように努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) ホームの見学などをしてもらい、時間をかけて雰囲気にならんでもらうよう、努力をしている。  (外部評価) 同法人にデイサービスや小規模多機能型事業所があることから、利用者が環境に徐々に慣れるような関わりができるが、管理者は、人との関係がその人が馴染むかどうかの重要なポイントであると考えており、職員の対応や場の雰囲気づくりに余念がない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 介護をするのではなく、同じ目線で助け合いながら、共に生活できるよう努力している。  (外部評価) 管理者や職員は、共に支え合うためには利用者と同じ目線であることが重要であると認識している。接し方の基本を「自分に置きかえてみる」におき、絶えず基本に立ち返ることを心がけている。共に過ごすためには「情」が必要であるとの話に高い専門性が感じられる。	※	日々のケアにて、その人の価値観を尊重し、共に支えあう関係を築いていく、取り組みをしている。また、観察記録等を活用している。  共に過ごすためには「情」が必要であるとの話は、シニア世代の職員だからこそその人生経験が背景にある言葉であるが、引き継いでいく必要があるため、今後は若い世代の職員の育成にも取り組んでいくことを期待する。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様と常に話しあい、共に支えあう関係づくりに努めている。		家族様と、情報交換をしながら、支援していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 入居者・ご家族様が、ゆっくり楽しく生活できるような雰囲気づくりをして、良い関係が築ける支援をしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ホームが所有している畑などで、できた野菜を収穫して楽しんでもらっている。馴染みの深い人との関係も断ち切れないよう、電話等で声かけをしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 入居者様の感情・価値観を尊重し、共同生活が楽しく送れるよう、努めている。		個々の価値観を尊重しながら、共同生活が有意義であるよう、努めている。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 併設の医療機関や小規模多機能に移り、在宅生活が始まってからも声かけを行い、時々遊びに寄ってもらっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> <b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 常日頃から、入居者様の希望や意向は把握するように努めている。  (外部評価) 管理者や職員は利用者との生活が長く、利用者個々の希望や意向を言葉でなくても把握できる関係ができていたため、認知症が進んでいる利用者に対しても、本人本位の生活支援が行われている。しかし、今後職員が代わった場合に、利用者の理解を深める手段が整っている状態とは言えない。	※	入居者様から希望を聞く事が困難な時も、ご家族様から聞き取りをし、意向を把握できるよう、努めている。  管理者は、センター方式のシートで利用者の情報整理を始めているので、取組みを進めていくことを期待する。また、利用者の情報は職員が把握していることも多いため、誰でも書き込めるような様式の活用方法の検討を望む。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族様が来所された際に、生活暦や過去受けてきたサービスの経過等を把握し、暮らし良い環境づくりに努めている。		入居者様から聞き取りが困難な場合、多方面から聞き出す努力をしている。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々モニタリングを行い、記録に残し現状の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) カンファレンス等に、ご家族様にも参加してもらえようになり、意見や要望を取り入れ、より入居者様の立場にたった計画が、作成できている。  (外部評価)		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 期間に応じて、計画の見直しを行っている。  (外部評価) 利用者の担当職員が日々の介護記録をミーティング前に1か月分要約し、介護計画と照らし合わせながら利用者の生活を見直している。介護計画の定期的な見直しは3か月となっているが、毎月記録を整理することで客観的な視点をもっており、見直しのタイミングを検討する目安にもなっている。	※	入居者・ご家族様に、見直しが必要であることを説明したうえで、現状に即した介護計画の見直しを行っている。  記録の見直しが全般的な内容となっている傾向があり、介護計画に焦点を当てて見直すよりよい記録となると思われるので、検討を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 計画に対するモニタリングを日々行い、達成度や新たな問題点を記録して、見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 外泊や在宅での生活を望む場合などは、身体状況・精神状況に鑑み、併設の小規模多機能施設等に移行し、在宅での生活が出来るよう支援をしている。  (外部評価) 同法人のデイサービスや小規模多機能型事業所、診療所のリハビリテーションなど、多機能な施設のネットワークがあるので、利用者の様々な要望にこたえることができる。診療所の看護師とも連携し、医療的な機能も充実している。		常に、小規模・多機能施設とは連携をとり、情報交換を行っている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 毎日の生活の中で、必要となるものは連携を図っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 入居者様の状況に応じ、適切なサービスが受けられるようにしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現在、該当する入居者様はいないが、今後は必要に応じて、成年後見制度なども活用していきたいと思う。	※	地域包括支援センターの知識を得て、地域の中で暮らしていくうえで、必要となる事の学習を重ねていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 併設の連携医療機関の医師に、週1回往診等をしてもらい、適切な医療が受けられるよう、支援している。  (外部評価) 母体診療所の院長が地域医療に力を入れており、利用者もかかりつけ医としての信頼からホームを利用しているケースが多い。かかりつけ医が地域の要請に応じて設立したホームと言え、利用者と院長とには信頼関係が構築されている。		病状、体調の変化がある時は、医師に連絡をとり、適切な医療が受けられ様に支援をしている。 また、適時ご家族様にも連絡を取っている。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 併設の医療機関の医師が専門医のため、診断や治療を受けている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 併設の医療機関と、日々情報交換をして、健康管理等の支援をしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 併設している連携医療機関と連絡を取り、入院したときなどは頻繁に声かけをして、安心してもらえるよう努めている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 母体の医療機関が併設なので、医師・ご家族様と連絡をとりあい、方針を共有している。  (外部評価) 運営者の方針で、ホームを終の棲家として位置づけており、ホームと隣接の診療所とは日常的に密な連携がある。利用者のターミナルケアの実践も積んでおり、厳しきや家族の協力の重要性なども理解している。職員には、厳しい勤務体制となることを承知しながら、ターミナルケアの実績が基盤となった余裕が見られる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 母体の医療機関が併設なので、医師・看護師・ご家族様と密に連携を取り方針を共有している。また変化があった場合は、速やかに検討できる環境が整っている。グループホームの四国フォーラムに参加して、他のグループホームでの看取りの報告を聞き、参考にしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 住み替え時には、ご家族様の了解を得て、十分な情報提供を行い、ケア関係者で話し合い、ダメージが防げるように支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 自尊心を損ねるような、言葉づかいや態度には十分注意している。個人情報の持ち出しや、流出がないよう厳しく管理をしている。  (外部評価) 意思表示の難しい利用者にも丁寧に言葉かけを行っている。利用者への対応も、個々の状態や生活歴等を踏まえて適宜見直している。利用者に安心感を与えるために、利用者の呼び名一つも職員間で統一しようと話し合いを持っている。個人記録も適切に管理している。		職員の都合にならないよう、職員間で話しあいをして、入居者様の立場にたったケア、および情報管理に努めるようにしている。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 入居者様の力に合わせ、納得いくまで説明をし、納得のいく暮らしができるよう、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その方らしくを基本に、その方に合ったペース・希望を聞きながら、支援をしている。  (外部評価) 生活のリズムを守るために一日の大きな流れは決まっているが、利用者に生活を楽んでもらうということが優先されている。医療的行為やリハビリテーションが必要な利用者にはケアが優先される場合が多いため、職員や診療所のスタッフはゆっくりと利用者を促すような対応を行っている。	※	日々の仕事に追われ、職員側の都合になっている事もあるので、十分気をつけたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 衣類・身だしなみは、入居者様の希望を取り入れ、支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 現在介助を必要とする入居者様が多い為、職員全員はできないが、可能な限り一緒にしている。  (外部評価) 一対一での食事介助が必要な利用者が多いため、全員同時にテーブルに着くことは難しいが、職員は、食事中はもちろん準備や片づけ時にも目配せや声かけを行い、楽しい雰囲気づくりに心がけている。また、準備中の匂いが生活感を醸し出すとの考えから、重介護で職員配置が厳しくなっても手作りにこだわるとの話には、「食事が楽しみ」という利用者の要望に応えようとしている姿勢が感じられる。		ひとりひとりの能力を把握して、一緒に食事の準備が可能な方には、手伝ってもらっている。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 現在タバコ・お酒を希望される方はいないが、飲み物やおやつは、状況に応じ楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 気持ちよく排泄できるよう、常に支援している。		失敗しても、自尊心を傷つけないよう、配慮している。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入居者様の希望に応じ入浴支援を行い、拒む方には拒否の原因を探り、無理強いさせる事なく、入浴が楽しめるように支援している。  (外部評価) 入浴は、タイミングや回数は利用者の希望に沿うように行われている。管理者は、入浴は身体を清潔に保つこと以外に、本人が安らぎを得る場であり、利用者と職員が信頼関係を構築する場でもあるとして、ケアのポイントとして重要視している。		ひとりひとりの生活パターンに合った、入浴を楽しめるよう支援している。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は、各個人の趣味をしてもらったり、皆で遊んだり、休んでもらったりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 職員の手伝いをしてもらったり、個々の楽しみ事ができるよう、支援している。  (外部評価) 管理者や職員は、一緒に生活している時間の長さから、利用者の好みやできること等について深く把握している。共同生活が基本の中で、時々気晴らしは個々の生活を保持するために重要であると考えており、身体的条件で動きの難しい利用者に対しては、道化師的な役割も果たしている。		洗濯物をたたむ・配膳をする等、個人の能力に応じ、生きがいをもちながら暮らせる支援をしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居者様の希望や能力に応じて、お金を所持していただき、使用できる支援をしている。		近所のスーパーやパン屋さんで、入居者様にお金を渡し、支払いをしてもらっている
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の体調を見ながら、可能な限り外出支援を行い、季節の移り変わり等を、楽しんでもらっている。  (外部評価) 3ユニットが中庭を三角に囲み、気軽に外気に当たる場所として日常的に活用している。散歩も気晴らしの一環として日課としている。しかし、車いす介助や見守り介助などで一対一の外出が増えてきているため、利用者により外出の頻度に差が出はじめている。職員数やシフトにも限界があり、早めの対策が必要と考えられる。	※	外出支援として老人クラブや民生委員等に協力を依頼するなど、地域資源の有効な活用についての検討を期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 入居者・ご家族様と話し合いをしながら、行きたい所へ出かけられる支援をしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者様の要望により、電話・手紙のやり取りができるように、支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) ご家族様や知人様が、気軽に訪問できるような、雰囲気づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全ての職員が、身体拘束の弊害を理解しており、禁止の対象となる行為を、しないように心がけている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけることの弊害は理解しているが、帰宅願望が強い徘徊の方がいる場合、その方の安全を優先して、外玄関等を施錠することがある。  (外部評価) 調査日は、入居から10日目の利用者が不穏な状態であったため、一つのユニットでリビングの鍵がかけられていたが、一過性であることとその理由を利用者や家族等に説明している。管理者は鍵を外すタイミングを見計らっており、鍵を掛ける弊害は理解している。		鍵をかけないケアに取り組んでいるが、やむをえない場合はご家族様に説明し、理解を得たうえで施錠することになっている。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 入居者様のプライバシーに配慮しながら、十分な見守りをして所在の確認をしている。		夜間の安全確認は、利用者様が驚いたりしないよう、配慮をしている。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 入居者様の状態に応じて使用してもらい、見守りながら危険防止に努めている。		危険な物品は、目の届かない場所に保管・管理している。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 救命救急等の知識を職員が学び、生かせるように取り組んでいる。		




自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 入居者の行動を把握し、全ての職員が緊急時に対応できるよう、定期的に訓練・救命講習を受けている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 防災マニュアルを作成して、年2回東温消防署の指導や訓練を受けている。また地域の方々の、協力や支援が得られるように、働きかけている。  (外部評価) もしものときの避難には、建物が平屋で周辺もゆっくりとした庭があり、安心感がある。また、防災マニュアルの作成、年二回の消防署との訓練などを行っている。防災については、ホームだけでなく法人全体で地域とともに取り組んでいる。	※	災害時を想定した訓練などを、地域の方々と一緒に行えるよう、声をかけていきたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 起こりうるリスクについては、入居時にご家族様に説明をして納得してもらい、その時々で対応策を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調には常に気を配り、早期発見ができるように、見守り・声かけを行い迅速に対応をしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入居者様、ひとりひとりが服薬している薬について、職員は理解ができている。また薬情等で、副作用や注意事項を理解する努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 入居者様の排泄パターン・状況を把握して、予防と対応に取り組んでいる。		便秘がちの方には、食材に気を配り、水分も十分摂取できるよう努めている。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアができていないか、声かけや確認をして、ハミガキチェック表に記録している。		各居室に、口腔ケアチェック表を貼り、入居者様にも意識をして毎日実施してもらえ、工夫をしている。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が栄養のバランスを考え、その方に合った必要なカロリー等の食事メニューを作成してくれている。  (外部評価) 法人の栄養士による栄養バランスの管理が行われており、旬の食材で食事を提供している。刻み食やとろみ食の利用者に対しても、それぞれのユニットで一人ひとりの状態に合わせて提供している。水分摂取量もチェックしている。		入居者様に、食事内容や水分摂取の必要性を説明し、適切な栄養・水分摂取ができるよう、支援している。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症マニュアルに従い、予防をしている。併設の医療機関にて、月1回の感染症対策委員会に出席させてもらい、勉強している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 衛生管理を徹底して、新鮮で安全な食材を使用して、食中毒の予防に努めている。また器具等はマニュアルに沿って、衛生管理を行っている。		週1回、必ず食材チェック・調理施設のチェックを行い、賞味期限や衛生状態の管理を徹底する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 入居者・ご家族様・近隣の方にとり、親しみやすく安心して出入りができる玄関周りや、近隣との調和を考慮した建物となっている。		庭には季節の花、建物の外周には竹を植え、親しみやすい環境づくりをしている。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとの花や、飾り付けなどをして、常に居心地の良い空間づくりをしている。  (外部評価) 各ユニットとも中庭を面して大きな窓を設えており、デッキを組み合わせた広がりのある共用スペースである。ユニットにより、リビングが吹き抜けで空間的にもゆとりがある。居室前の廊下も掃き出しの窓があり、ひとつの居場所としても活用できる。		ホームから一歩外へ出ると、広い中庭が広がり、その中庭を包むような、木造平屋建ての構造になっている。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 入居者様が安心できる居場所、個々の好きな場所で過ごせるよう、工夫している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 思い出の品や写真などを持ち込んでもらい、居心地良く過ごせるよう、工夫している。  (外部評価) 利用者により、ホームが用意したもの、自分が持ってきたものと様々な部屋があるが、どの部屋も温かみのある設えである。家族の写真や手作りの作品などで個性豊かなインテリアとなっている。		ご家族様に話して、可能な限り持ち込める物品がある方には協力してもらい、居心地の良い空間をつくる努力をしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 空調・換気には十分気をつけ、個々にあった温度調節をして、快適に生活してもらっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内部を有効利用したり、手すりを利用する事により、安全で自立した生活が送れるよう、工夫している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 他の介護者・医療従事者等の協力もいただき、混乱や失敗の無いよう、自分自身でわかる力を活かして、自立して暮らせる工夫をしている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 中庭の季節の花の手入れ、また併設の病院横に家庭菜園をつくり、種まきや収穫を楽しんでもらっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらい 評価) 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんど掴んでいない	入居前のアセスメントや入居後も、常に入居者・ご家族様の意向を聞き、その人らしい暮らしが送れるように努めている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 1 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	毎日ではないが、ゲームをしたり、歌を唄ったり、入居者様と一緒に過ごせる時間を、できる限り設けるようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員全員が、入居者様ひとりひとりのペースで暮らせるよう、ペースを合わせている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その方にあったケアプランを作成して、そのケアプランに沿って対応、支援をすることで、生き生きと充実した生活を送ってもらっている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常的に出かけられる方が少なくなっているが、可能な方には行きたいところを聞き、外出支援を行っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	医療機関併設のグループホームであり、医療面・安全面で安心して過ごせている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者様の要望事項は、その時々で聞き入れ、沿えるようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	意見箱を置いたり、アンケート形式でご家族様が、意見・要望を言いやすい環境づくりに努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	新聞の発行や催しごとを開催して、地域交流を深めているが、まだ十分とはいえない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の方々に、気軽に立ち寄ってもらえるよう、取り組んでいる。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	高齢の職員が多いが、健康に気をつけ、十分な人生経験を生かし、明るく生き生きと働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その方に合ったケアプランを作成し、支援をしております満足してもらっている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ここに入居してから、「とてもいい笑顔が増えました」と感謝の言葉を頂くことも多いが、職員全員で要望等を言いやすい雰囲気作りに努めており、ご家族様から色々な意見も聞かせてもらうことが多い。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

医療機関が併設のため、ご家族様からは「とても安心する」という意見を良く聞きます。

立地条件も良く、広い中庭で思い思いにゆったりと時間を過ごすことができ、季節の花を植えて一緒に水やりをしたり、眺めて季節感を味わうことができます。

また、中庭では主に年4回、地域の方々も招待して行事をしています。

行事は沢山のご家族様・近隣の方が集まり、とても楽しいと評判です。

行事の準備段階より、入居者様とご家族様が料理を作ったり飾りつけをするなど、普段はなかなかできない触れあいもあって、大切な時間となっています。

月に1回生け花の先生が入居者様と一緒に生け花をしたり、三味線・お琴のボランティアの方やプロの歌手の慰問など生活に変化もあり、職員も家族同様に一緒に楽しんでます。

入居者様の人生に関わらせていただく喜びを胸に、毎日精一杯の介護をさせていただいています。